



朝本

醉菩提

稽妻後編



小三石

3047
1



^13
3047
1-10

3047
1

摩訶狂雲醉菩提經序



荏土有髮沙門竺寶蓮述

活佛出世住紫堊阿蘭若中其名曰摩訶
狂雲此是阿羅漢投胎自翻觔斗下世於

娑婆穢土曰阿耨多羅三藐三菩提心現
許多神通禪機活潑遊戲周旋任情玩世
極意佯狂不知何因緣而來於此娑婆俾
狐禪闡提念滋駭於其蹟而疑於其心極

樂世界。清淨無垢。天樂聒耳。醍醐甘口。乃至迦老為師。聖眾為友。事事如意。事事圓滿。是不可飲而孰可飲乎。甚矣慈悲平等之於佛心。寧暫且辭彼可飲而不忍坐視眾生。耽淪不惜軀命。混同濁惡。種種方便。種種說法。而狐禪闡提不記不省。槩以謂黠僧瞞人。每每如此。況乎迷惑眾生。其孰能畧其蹟。而認其心。舍其糟。而歆其醇者。

是寔為可憐愍矣。聞佛弟子殊慨。後生闡提如醒者。以為墮落之教。使迷惑眾生。遂失機緣。故開遺教。易入之徑。作醉菩提經若干品。一切眾生。迷惑煩惱。一旦蒙活佛

開示。悉皆醒悟。所謂煩惱即菩提。不其然乎。醒醒導師。生于數百年後。特奉行活佛之教。建立法幢。開張道場。翻譯此經。演說勸化。固欲使眾生遍蒙活佛之鴻惠也。嗟

受持此經而知改過移善乃活佛之慈悲。則導師之慈悲已。余不勝隨喜書以告十方道眾云。謹序。

文化五年戊辰六月穀旦

弟子 勃率 校字

辨財天十六童子
第三筆硯童子

又名香精童子
本地金剛手菩薩



辨財天十六童子
第三筆硯童子

戊辰二月望過醒齋與家兄同賞
庭梅寓出新詞之篇命一句勘錄拙
韻瑕玉冊梓后如何大方白眼因諧
書筮翁風求鳳卷末之作聊奪其命
情誰替挽世風偷旋作新詞付小優
欲粉枯禪談悟學先粧晉客演風流
由邪引入周行路借杖權為浪蕩舟
莫道詞人無小補也將弱管助皇猷
文化戊辰季春

家茅山東京山題



○毎回假用法華之品目以為標名

○通計十六品以阿羅漢之宝号為號

○跋羅駄闍
住 在西瞿耶尼
彌 在北方迦濕
諾 迦跋釐

住 在東勝
身洲

○蕪頻陀
住 在北俱
盧洲

○諾矩羅
住 在南瞻
部洲

○跋陀羅
住 在就沒羅洲

○迦哩
住 在僧伽
茶洲

新刻本朝醉菩提全傳

品目釋義

善惡因果序品第一

此小説一部あり善惡因果の理と説其發端なる
ゆゑに序品とす

得失譬喻品第二

金と失て思ひひろひ兒ととて金と得る善惡つひ報
の事と説譬喻とあり故に目品とす

醉菩薩方便品第三

一休禪師假々顛狂と發して世と度と是所謂方便
なるゆゑに此品に目を

剃度功德品第四

梅津嘉門景春の兒剃髮の事と説一子出家すれば
九族天よ生どとす故に功德品と稱と

姊妹本事品第五

科註舉昔事以顯今故目之為本事品とす此品
兄弟の女児をわらむ相會事と説ゆゑに此品目を
假用せり

俠客提婆達多品第六

此品小出る俠者の譚名と提婆と稱をゆゑに此品目
ありとす

地獄信解品第七

○弗多羅
住在鉢
刺拏洲

○戊博迦
住在香
醉山中

○羊諾迦
住在伽利天

○羅怛羅
住在畢利
颺瞿洲

○那伽犀那
住在羊度
波山

○因揭陀
住在廣
眉山中

泉州沙界高須の娼婦地獄一休禪師と泰禪して
信と發し解と生し疑と去て理明ありゆゑにちつり

古格如來神力品第八

古格佛菩薩に化來て仇とびくんと一休禪師とれと
知て鴨川共衛に射さむ禪師の神通如來の神力と
異ありゆゑに此品は目たり

父母安樂行品第九

孝子土器と賣て父母と養父母家へ貧しとてをも
心をかゝり安しこれ孝子の行よりゆゑにこれを
目して去りつり

畜生勸發品第十

科註勸發者戀法之辞也と一休禪師狗子佛
性箇無字と説て煩惱乃犬を化度を故と此品と
かばけて畜生勸發といつり

處女授記品第十一

科註授是與義記是記事也と此品一休禪師
慈悲と與て婦女と教化する事と記を故と去り號

災禍從地涌出品第十二

佐々木判官唯一夜に滅亡を災禍恰地より涌出さる
が如き事と説故よ此品目と假用せり

百蟹陀羅尼品第十三

百蟹の名画其精とありて妖獸の危難をとく

陀羅尼の大功德は異からざる故に云う

生死流轉藥草喻品第十四

山小入て藥と採り起て一品總生死流轉の理を説示と

赤繩囑累品第十五

囑付也累に纏也此品月老の紅糸はきぬさひく離敵

夫婦となる事と説く

彌醜化城喻品第十六

法華經化城喻品あり宿世の因縁を説此品も一休

活仏あり宿世の因縁と説彌醜とありて世の無常と

示と故に此品目と假用せり

通計一十有六品終

伐那婆斯
住在可住
山中

阿氏多
住在鷲
峯山中

注茶半託迦
住在持軸山中

稻妻表紙後編本朝醉菩提全傳

例引

一休禪師任情遊戯と以本来の面目と宋代の濟顛大師の行狀

相似たるものゆゑに此書と本朝醉菩提とを

前編著述の刻後編の徑路をまうけゆらど今也書肆の懇望やむ

こととを俄に後編とこれ前後の編と合一閱とま人乃年

齡事の時日等齟齬とることとくあつと看官これをあやむこと

あくれ

此編の時代應仁より起り其頃一休禪師すでに七十餘歳多此

三十一より五十むりの年齢とを實録よりわくと大にたつとこれ

わかづらに後編をばくちゅうなる

○笠翁の序に此書と禪師の遺經とするの風流好事の所為あり

毎卷譯の字とありとい其意にやうし而已其諸とよりのことかえ

○原書醉菩提傳の編者明人桃花庵一と醒齋と號を予が號を

醒と齋といふ暗又號を合せる此書と編するに抄して一因果あるに

わづら

江戸 醒齋京傳識



文化五年戊辰夏六月

臭皮袋圖

いづれの人の骸骨小わらざりきたひこの臭い... 骸骨をつとて持たりとかりとひくをさにてい



无常の風はうて息は身の皮やれぬれがも人毎に... 骨少しかる人の迷ひ

皮ふこそとことんあのをとてあれ 骨少しかる人の迷ひ 一休

時をきらぬ无常の風はうて二つの眼をもちまらにこち一つの息あがく... 鬼貫

愛網無開愛不纏
 金田有種三金仙
 禪心要在塵中淨
 切行欲須世上全
 煩惱脫於煩惱際
 死生超出死生前
 不似火裏生枝葉
 安似花開火裏蓮

這八句詩係前明天花巖主人
 醉菩提自題今特冠篇首令
 看官認識本編所據云

一休禪師朱太刀之像

傍若無人閑逸心
 奈何床下法塵深
 夢聞銀燭繡簾月
 白日青天喚朗吟

右一休禪師自像之讚



一陽齋歌川豐國謹寫

一休會裏にあき物
 ま那 正月 七茶むを
 衣法と免放参 經 陀羅尼
 精樂田系持 多ひもの尺八
 傾城系佐乃
 天下老僧の活作
 見于其角焦尾琴

出雲於国 歌舞妓躍之圖 縮 菱川師宣画

右の石川とて於国の時代
 石川とて人名
 催馬楽の
 石川とて人名
 石川とて人名
 石川とて人名



泉州塚高須名坂地獄



地獄人多ちさうりやい
遊女
地獄
右連系同答の事塚鏡小見也
本文の詳小記せし

盃盃三毒之爛晝夜
恒燔燔翁百八之藪
夏冬尤繁



安計呂山百魔山姓





一休和尚以髑髅示無常
 おろしうおきうらむとぞうた
 示無常
 おろしうらむとぞうた
 目出なほとこれらうらむと

浄用公



不破伴左衛門重勝弟伴作

箱巻の螺舎

朝敷

空み又

名古屋山三郎元春一子小山三

Red seal impression

天狗ハ
名を以て
其形を
見ざる
石末
唯善を
護久し
悪を罰
形を畫
世人の戒
とす



酒賣亦六之妻於三輪

極楽瓜のあざ

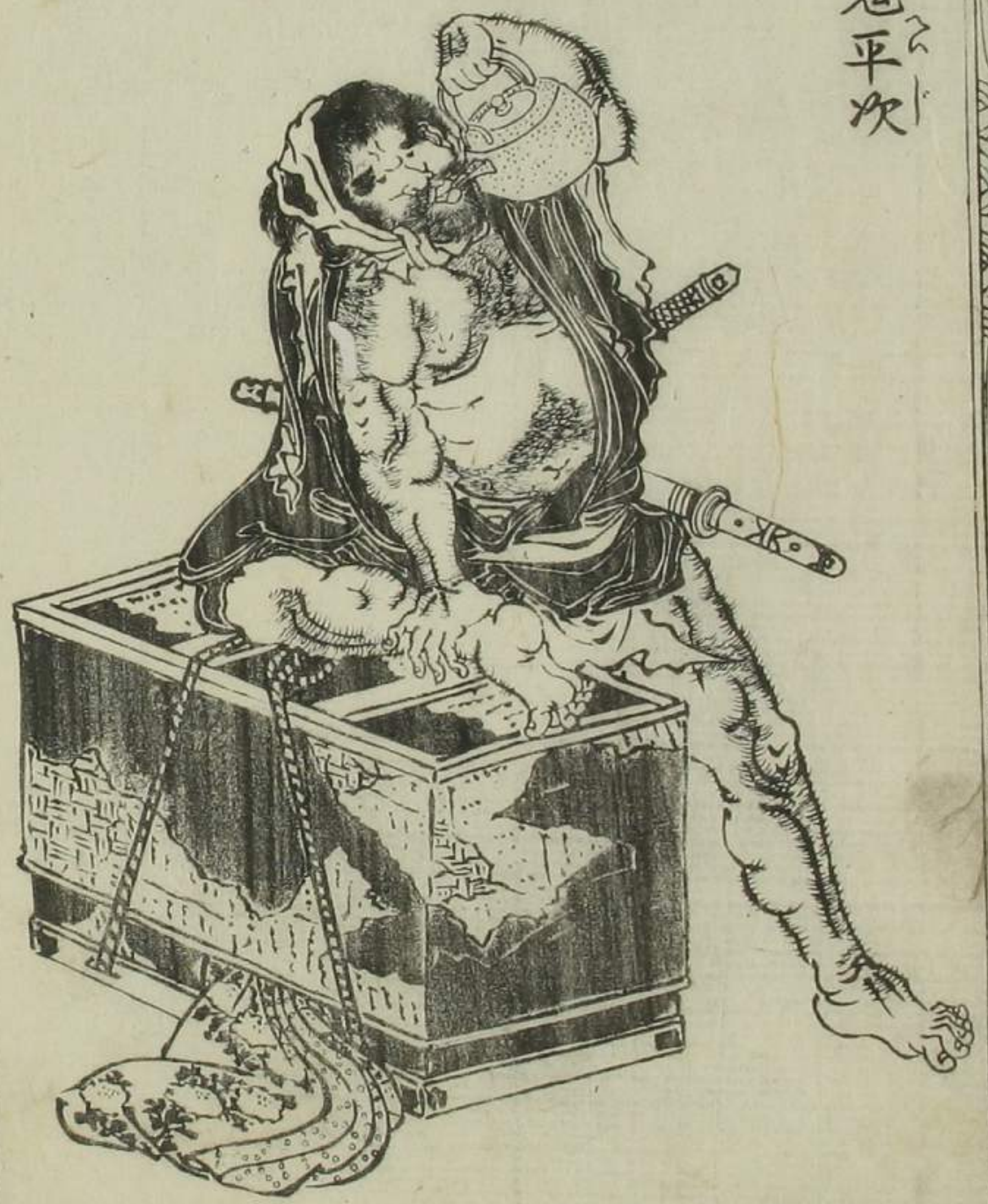
杉葉まゝの亦六門

一休和尚



舍利弗鬼平次

雙眉別立濃
似鳥雲兩目
晶瑩光如急
電跣胎脈橫
生怪肉僅逼
嘴露出獠牙
腮白瘡結淡
紅鬚耳後擊
鬆長短髮粗
豪氣質渾如
生鉄圓成披
悍身材却似
頑銅鑄就



浪華仇俠野晒悟助



曾て莊子の融鑿の語
小町があまの哥と悟して衣服
融鑿の形以て人の天を奪と
實是融鑿目中の草を抜が如し





本朝醉善撰卷之

三

妻於三輪

袴衣翹子衣

紅角啄毛陽

これい

父と長柄の
櫛と

たうんハ雉子も

うささし

酒賣亦六



本朝醉善撰卷之



浪人提婆仁三郎

得失榮枯總在天機
用者也徒於人心不足
蛇吞象五事到以螳捕
蟬

白邊錫杖
虎解面
鉢盂盛
一龍

一休師
羅漢
身化
のひ傳



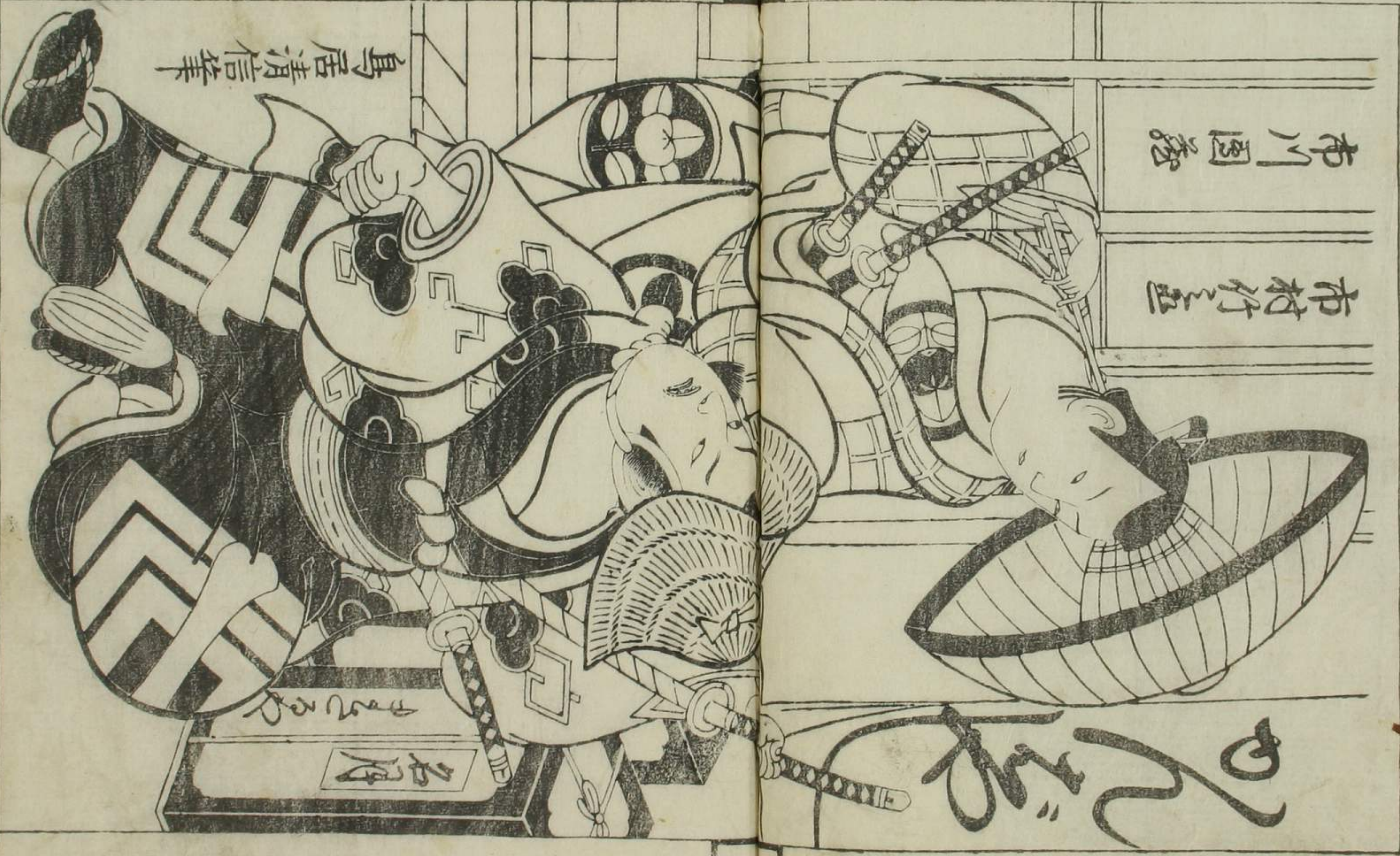
勢州奥地蔵

勢陽雜記云文明年中尊像再興の時
 往來の僧一休和尚を招して用眼の導師とて其詔を
 釋迦(過)彌勤(未)出(回)の浩(浮)世(用)眼(地)藏
 傳(て)不(開)地(藏)再(興)の時(一)休(和)尚(用)眼(の)導(師)を
 七(休)一(休)佛(の)頭(へ)志(す)不(小)便(一)を(用)眼(を)と(た)れ(そ
 臨(も)見(し)て(過)を(多)び(詣)て(い)れ(た)と(あ)ら(わ)る(と)云(ふ)
 水(を)そ(と)り(清)け(れ)ば(な)ら(ま)ち(其)々(小)物(怪)つ(と)い(ひ)け(り
 天下(の)老(法)師(の)我(眼)を(ひ)を(た)び(け)る(の)何(と)と
 い(は)れ(け)る(を)と(い)は(る)の(ま)を(け)り(々)又(こ)れ(を)尋(ら)し(彼)和(尚)の
 行(出)を(も)と(り)て(ま)る(の)言(を)い(て)難(さ)け(り(和)尚(此)度(は)撓(鼻)を
 さら(て)を(地)藏(の)首(を)と(り)置(し)と(す)ら(是)も(勿)体(や)ら(ぬ
 る(も)す(め)の(奇)特(小)物(ぶ)り(て)教(の)ま(ま)に(ひ)く(物)怪(の
 台(り)ぬ



つて後和尚飯洛の時と
 ま(ひ)た(る)を(と)り(て)是(を)ま(ま)に
 切(ひ)の(と)ま(め)け(置)ま(げ)ら(と)ぬ

此小摹一あつはせる繪を享保の元祖市川團藏
 四代目市村竹之丞不破名古屋狂言の番あり漆繪と
 此は則是此
 因縁史よ
 摹一
 出さ



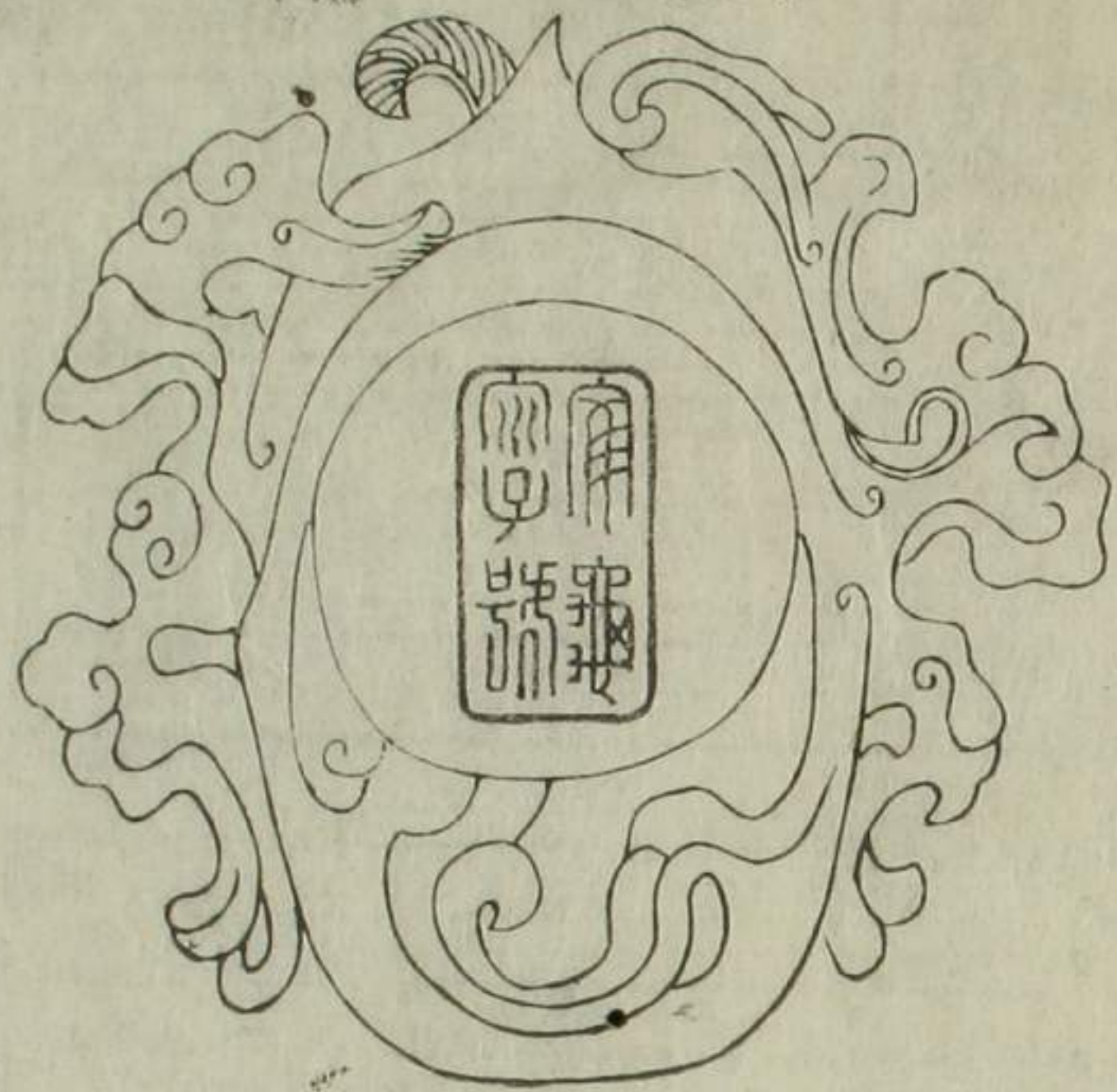
此は則是此
 因縁史よ

鳥居清信

八月辛酉

一

本朝醉菩提首卷終



友部有圖章
字號 主願
諸君須認此
記為真



右繪草紙の稻妻表紙版元伊賀屋勘右衛門先祖の藏板なり此各々因縁ありて
りて草紙の伊賀屋の繪草紙問屋の舊家あり

身 崇まのあひら
二 貴名をえけつ
三 吉原のいんげつ
に 東山八つおつ
合 里 二 殊 あり



這はあつたの享保の初二代目團十郎不破伴左衛門狂言の繪草紙
丹衣紙の外題あり此時山三郎に扮する者勝山又五郎葛城を扮する者
藤村半太夫あり 繪の近藤助五郎清春の筆あり

